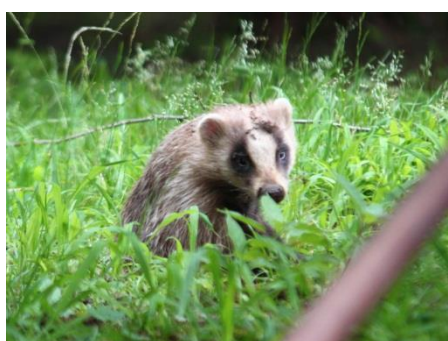




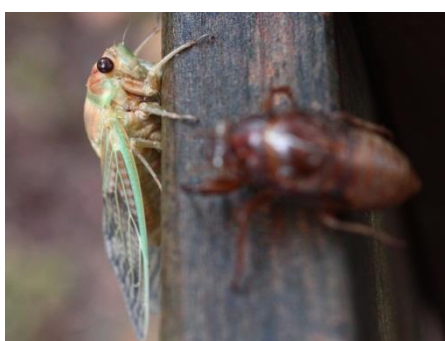
愛川ふれあいの村7月の風景

平成25年 7月 自然のたより

今年は例年より2週間も早く梅雨が明け、雨量が少ない7月になりました。夜は涼しく過ごしやすい気候ですが、日中は暑く、セミの声が響いています。夏休みが始まった下旬にはセミの抜け殻が多くみられ、セミと子どもたちの声で村内は賑やかです。暑さに負けず、鳥たちは昆虫を食べるために元気に飛んでいます。



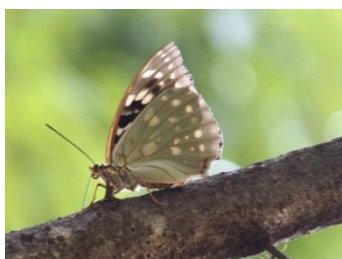
見返りアナグマ



羽化直後のアブラゼミ



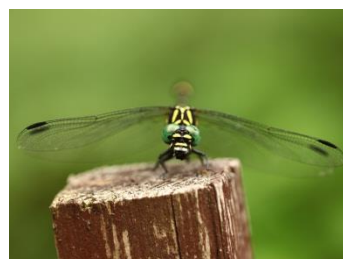
夜に咲くカラスウリの花



樹液を吸うオオムラサキ



ヤブキリ



オニヤンマ



隠れているクワガタ



ヒヨドリのヒナ



コシアキトンボ



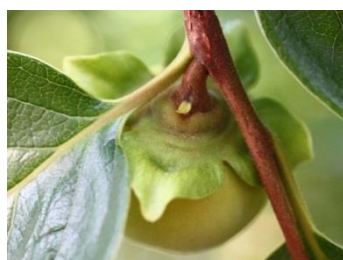
長い口吻のスズメガ



ヒマラヤスギの球果



ヤマモモの実



青いカキの実



青いクリの実



スベリヒコ

★セミの羽化★

セミが羽化した姿を見たことはありますか？

夕方、セミたちは土から出てきて羽化を始めます。羽化直後は透き通ったエメラルドグリーンでとても幻想的です。セミは翅（ハネ）が乾くまで、じっとしているので夜の自然観察もできます。おすすめスポットは村内の食堂事務所前のメタセコイアと、しらかば棟3前のカキの木。宿泊する際は是非チェックしてみてください。運が良ければ羽化している姿を見られるかもしれません。

▶食堂事務所前のメタセコイアの葉の裏。セミの抜け殻がたくさん！（写真右）



★夜に咲くカラスウリ★

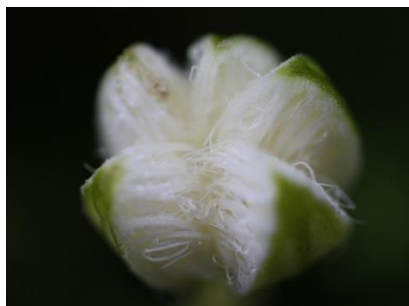
夕方から花弁がほころび始め、夜になると開く花があります。管理棟前の藤棚の近くにある「カラスウリ」というツル性の植物です。カラスウリは子孫を残すための知恵をたくさん持っています。

一つ目は、暗い夜に紫外線の光りを放ち、紫外線が見える昆虫たちを集めること。昆虫が光るところに集まる習性を利用しています。

二つ目は、必ず受粉できるように、花から伸びた茎の奥に蜜があること。蜜を吸うために昆虫が体を押し込むので、必ず昆虫に花粉が付きます。

三つ目は、実を付けるために受粉する雌花を残し、不要になった雄花を切り落とします。このように余計な養分を使わないようにしています。

ユニークなカラスウリは夜の自然観察にはオススメです。

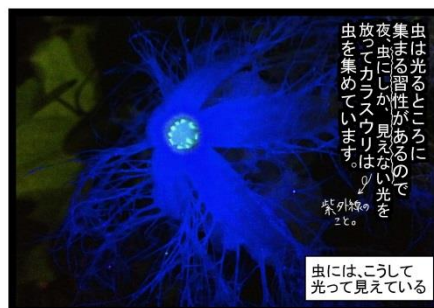


▲夕方、ほころび始めた様子



▲紫外線カメラを当てて撮影

人の目 虫の目



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611

HP：http://fureai-aikawa.com/

写真：吉田文雄・葉青芳

文章・イラスト：葉青芳

編集：葉青芳・加藤文昭

愛川ふれあいの村 で検索★

